



発行 平成26年3月  
編集 宇部工業高等専門学校  
五十周年記念資料展示室  
住所 〒755-8555  
山口県宇部市常盤台2丁目14番1号  
電話 (0836) 35-5037  
URL <http://www.ube-k.ac.jp/~50thRoom/>

## 宇部高専は平成24年に 創立50周年 を迎えました

### ご挨拶

五十周年記念資料展示室長 高橋 正和



五十周年記念資料展示室

平成24年10月に創立50周年の祝賀会が行われましたが、その記念事業の一環として、「五十周年記念資料展示室」が本校管理棟2階に設置されました。半世紀の歩みを振り返り、同時にまた、これからの未来を切り開くためのよすがとなるようにとの思いを込めて、皆様方から寄せられた貴重な寄付金を基に、本展示室はつくられました。

本校卒業生や本校教職員の皆様これまでのご活躍を遺憾なく示す成果や業績、その作品、物品類、資料類などは、常設展示するコーナーに配置いたしております。また折々に、特集コーナーを設けて、特集企画展示も行っております。これに関しては、本誌の各紹介記事をご参照ください。

ご来校の折には、ぜひ展示室にお立ち寄りください。平日開室しており、自由に見学できます。なお、資料類の収集も続けておりますので、残すべき貴重な資料等をお手元にご所蔵でしたら、是非展示にご協力のほど、お願いいたします。

## 50周年記念事業

### 50周年記念講演会・式典・祝賀会を開催しました

平成24年10月10日、創立50周年記念講演会及び記念式典を宇部市渡辺翁記念会館及びANAクラウンプラザホテル宇部で開催しました。記念講演会では、財団法人数理科学振興会理事長の広中平祐氏と落語家の三遊亭圓楽氏が講演を行い、学生や教職員だけでなく市民の方々にも聴講いただきました。広中平祐氏は『若者への提言』と題し、「せっかく生まれてきた人生を楽しんでほしい」と語りかけました。また、三遊亭圓楽氏は、『笑顔の日本語～ユーモアコミュニケーション～』と題し、「言葉で相手にきちんと伝えること」「相手を思いやりながら自分の思いをつたえること」などコミュニケーションの大切さについてユーモアを交えながら説き、ほぼ満員の会場は笑いに包まれました。

会場を移し行われた記念式典・祝賀会では、約200名が参加し、盛大に50周年を祝いました。



記念講演会での講演風景



記念式典の様子

### シンボルマークを制定！

創立50周年を機に、学校理念として「挑戦し、探究し、高く羽ばたく 宇部高専」("Take risks, go deeper, reach higher!")が新たに制定されました。それを象徴するエンブレムとしてシンボルマークを制定しました。

宇部高専の頭文字Uを、未来へ向かってはばたく躍動感をもって表し、そのU字形のなかに光と希望を示す星型のモチーフを配して包み込んだ非対称のかたちで、さわやかなブルー系の色によってこの理念をシンプルに表現しています。本校の象徴として、これから先も長く、また内外に広く、愛顧されることを願っています。



# 岡野大輔氏(平成16年度卒・機械工学科)講演 「消防士を辞めて世界一周。」 そこで見たものは。」を開催

平成25年5月29日、マルチメディア学習室において、第1回五十周年記念資料展示室主催講演会を開催しました。講師の岡野大輔氏は本校を卒業後、宇部市内で消防士として6年間勤務しましたが、「世界をこの眼で見たい」という思いが抑えきれずに退職、平成23年5月、世界一周へと旅立ちました。それから1年10ヵ月間、中国から始まってアジア、アフリカ、東欧諸国、南米など62ヵ国を回りました。

講演では、各国で撮影した写真や動画を交えながら、各国で見た風景のことや出会った人々の話、アクシデントでの苦労話など様々なことに話が及びました。参加者は学生・教職員の計55名で、大変好評でした。

6月8日、9日には、宇部市北琴芝にある理髪店barber wakazoにて写真展が開催されました。驚くことに訪れた人の数は約500人でした。宇部日報に掲載された写真展の記事を見た人が訪れたほか、岡野氏のブログ「世界のどこかで会いましょう」のファンが九州・広島をはじめ東京・大阪・京都などからつめかけました。岡野氏の写真はどれも魅力的で、特に子どもの写真は明るく、笑顔に溢れています。きっと、レンズを向ける岡野さんがいつも親しい笑顔をしているからなのでしょう。なお、岡野さんの愛用カメラはニコンの一眼レフD7100で、撮影技術は独学で勉強したそうです。

五十周年記念資料展示室でも、写真展「岡野大輔写真展—世界周遊62ヵ国の旅から—」(7月11日～9月30日)を開催しました。観覧した学生達は皆興味深く、熱心に写真に見入っていました。



講演会の様子



岡野さん(中央)へインタビュー

岡野氏に「英会話の力はどのように身につけたのか?」とインタビューしたところ、「子供の頃から英語は好きだったけれども、英会話の勉強は特にしていない。旅行前は全く話せなかった。今でも、ちゃんと話せているとは思っていない。旅に出てからの実践で、コミュニケーションの術を身につけただけ。だから、お決まりのフレーズから覚えていった。語学力云々よりも、まずベースになるのは人と関わりたい気持ちだと思う。あとは語彙力。単語と単語をつなげるだけでも、コミュニケーションはずいぶんできる」と答えてくれました。また、「在学生に何かアドバイスを」と

お願いしたところ、「人と繋がっていくのは本当に楽しい。パワーをもらえるし、色々な人の良い所や悪い所を見て成長できる。それに様々な人達からの助けがあってこそ、何かができるのだと実感できた。是非、人と積極的に関わるようにして欲しい」、さらに「まずは海外へ行ってみたい。どこでもいい。一回は!人生は一度きりなのだから。日本を外



写真展開催セレモニー

写真鑑賞をする学生

作品「ポリビア、ウユニ塩湖」



写真展は学生にも大好評

から見て欲しい」と力強いメッセージをもらいました。

絶景が大好きで、在学中から海外に憧れ、「外の世界を見たい」と願い続けてきた岡野さん。次はアメリカ横断をやりたいとのこと。「見たいものは、まだまだたくさん。でも今度は仕事と平行して」と笑顔で語ってくれました。岡野さん、どうか良い旅を!

(展示室員 赤迫照子)

## 特別展示のお知らせ



## ETロボコン2013チャンピオンシップ大会 アーキテクト部門 **総合優勝!**

パシフィコ横浜において開催された「ETロボコン2013チャンピオンシップ大会」において、ETロボコン同好会のチーム「男子力∞MAKOTO」がアーキテクト部門総合優勝を勝ち取りました!同大会は、組込みシステム分野における実践教育を目的として開催される大会で、企業・大学・短大・高専・高校・個人が参加します。今回優勝したアーキテクト部門は、「人をわくわくさせる製品の企画力・創造力の育成」を目指して今年度新設された部門です。これまでのデベロッパー部門が組込みシステム入門及び初級者を対象としているのに対し、中級者、企画開発へのチャレンジが対象となっています。

五十周年記念資料展示室では、その成果(自作のロボットや表彰状など)の展示を行っています。本校へお越しの際は是非お立ち寄りください。

## コラム

### 宇部高専の明日へ

学校は若い人を育てるところです。「人間性豊かな人間」を育むところです。それには過去を振り返り、過去から学びましょう。昔は、学生会が盛んに活動し、体育祭も大絵画を建てて競い合い、クラブ活動では中国大会で何種目も優勝する、それが宇部高専でした。学生たちは多くの事を学び、体を鍛え、切磋琢磨していました。展示室の中、保管した書類の中には貴重な宝が眠っています。今一度扉を開いてください。過去の財産から価値あるものを見つけ、掘り起し、新たな息吹を吹き込んでください。宇部高専の将来のために……。

宇部高専名誉教授 金田昭久

# 特集企画展示 の紹介

# 校歌作詞者・上田敏雄先生

～ 日本で最初のシュールレアリスム詩人～

平成25年度の展示室の特集コーナーとして、本校OBの岡野大輔氏の写真展に続いて、昨年10月からこの2月末までの期間、上記のタイトルで開催いたしました。

上田敏雄先生は、本校の英語科の最初の教授でした。そして、「常盤一の丘に一胸は一り うたえ 世紀一の花環 友よーになわん・・・」と愛唱されてきた校歌の作詞者です。「常盤の丘」、「周防灘」、「スワン」とゆかりの地名や名所を織りこんで、工学を学ぶ若人のはつらつとした息吹を歌い上げた素晴らしい歌詞と、またそれにふさわしい見事な旋律が与えられ、数ある校歌の中でも、出色の完成度を見せています。

上田先生は明治33年、防府市の大道に生まれました。実家の前の道は、旧山陽道で、江戸時代から続く大きな庄屋（豪農）でした。山口中学を卒業し、慶応大学文学部へ入りました。そこで、日本を代表する詩人西脇順三郎と知り合います。弟の上田保さん、北園克衛さん、そして上田先生の3名が、日本で最初のシュールレアリスム宣言を発表しました。これが詩人上田先生の出発点になりました。

戦後、山口大学で英文学を講義されていましたが、昭和37年の高専創立時に、本校に英語科教授として赴任して来られました。

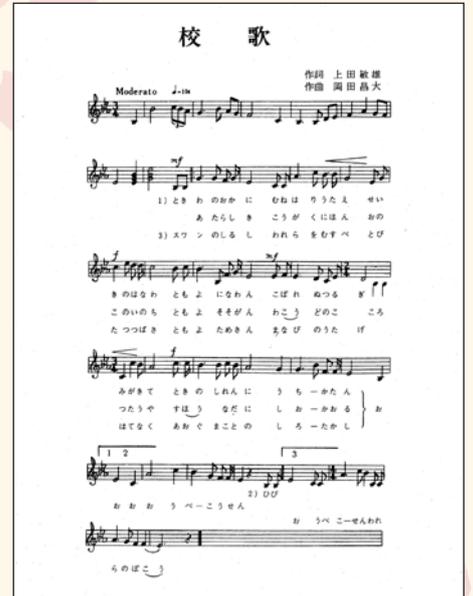
シュールレアリスム（超現実主義）とは、すでにできあがった見方から自由に、意識下の世界を表現しようとする芸術運動で、1920年代フランスで起こりました。偶然性もたらす面白さ、無関係なイメージの結びつきによる意外性などに、「遊び」の自由な精神をこめて人生の真実に迫っていこうとします。上田先生たちの「シュールレアリスム宣言」が出されたのが、昭和2（1927）年ですから、ほとんどリアルタイムといってよいスピード感をもって、非常に敏感に世界の新思潮に対応していたのがわかります。

先生は慶応の学生時代、若干25歳にして萩原朔太郎に見いだされ、詩壇に華々しく登場しました。昭和初期から超現実主義詩人の旗手として活躍され、晩年に至るまで、詩と詩論の展開に努力を傾注してこられました。その独創的な詩作品には、上田先生の深い学識に裏打ちされた「仏教・カトリシズム・マルクス主義」の融合が指摘されています。

この度の特集では、1. 単行本、詩作品掲載誌 2. 詩原稿 3. 校歌作詞に関する資料 4. パネル資料（年譜、詩作品、肖像写真など）を中心に展示いたしました。

展示に当たっては、上田先生のご息女の岡本みよ様、並びに上田先生の教え子であり、本校英語科元教授の山本博信名誉教授の全面的なご支援とご協力をいただきました。記してここに、篤くお礼を申し上げます。

（展示室長 高橋正和）



展示室での企画展の様子



展示期間中の様子

## 編集後記

誌名の「フリーゲル」とは、ドイツ語で「翼」を意味することばです。本校を羽ばたいた卒業生・教職員の軌跡をたどるとともに、やがて本学から羽ばたく在校生の活躍も、随時ご紹介してまいります。なお、白鳥の翼をイメージした本誌のロゴは、企画連携事務局企画係員がデザインしました。ロゴだけではなく内容も、手づくりならではの親しみやすさを持ち味としたものを目指します。よろしくお願ひ申し上げます。

（展示室員 赤迫照子）

